

オイルバランスの正常化、細胞膜強化で抗炎症体質 血液サラサラ、血圧正常化の切り札

南極のオメガ



南極クリル



南極クリルの群れ



1日1粒～2粒を目安にお召し上がり下さい。

南極クリルとは、南極の極めて限られた地域でのみ生息するオキアミです。オキアミ類は全世界に広く分布しているエビ様の動物プランクトンです。一般的に知られているオキアミの大きさは0.5～1.5cmですが、南極オキアミは、体長約6cm、体重およそ2gとオキアミの最大種になります。

この小さな生物には他に類をみない特徴があります。それは、オメガ3脂肪酸を高濃度に含んでいる事。また、たんぱく質を分解する最も強力な酵素を作り出す成分を持っていることです。さらに真っ赤なアスタキサンチンが天然のバランスで含まれています。オキアミは栄養価が高く、健康食品や医薬品などの産業で製品開発が進められています。

南極オキアミオイルの効能

- オメガ3脂肪酸 EPA・DHA(抗血栓作用・血液サラサラ・高血圧の改善・PMSの緩和・痛みの緩和)
- リン脂質(脳萎縮予防・記憶力向上・痴呆症予防)
胆汁の産生を促進し、脂質のエネルギー代謝を活性化、コレステロール値を低下。
- タウリン(動脈硬化・肝機能強化・抜け毛や薄毛の予防改善)
- ベタイン(肝機能強化)
- アスタキサンチン(抗酸化作用)
万病の元といわれる活性酸素を消去する強力な抗酸化機能。
紫外線の影響から身を守り、免疫系をサポート。
アスタキサンチンはカロチノイド系色素の一種で、鮭、イクラ、マス、オキアミ、エビ・カニ類などの赤色色素です。



～クリルオイル

クリルオイルとは？

世界で最も美しい水質を誇る南極海域に生息する、「ナンキョクオキアミ」から抽出したオイルです。生物学的利用率が高いリン脂質結合型オメガ3を豊富に含むほか、高い抗酸化作用を持つアスタキサンチンも含有し、高い健康促進効果を秘めています。「次世代型オメガ3」として注目を集めており、米国で600億円市場になった勢いが日本市場にも波及しつつあります。



ナンキョクオキアミ

(英名：Antarctic Krill、学名：Euphausia superba)

南極海に生息するエビに似た動物の一種です。オキアミ類の中でも最大に成長し、体長は5～6cmに達します。その寿命は5～7年と考えられています。クジラをはじめとする南極に暮らす様々な生物の餌となり、南極海の生態系を支える重要な役割を担っています。

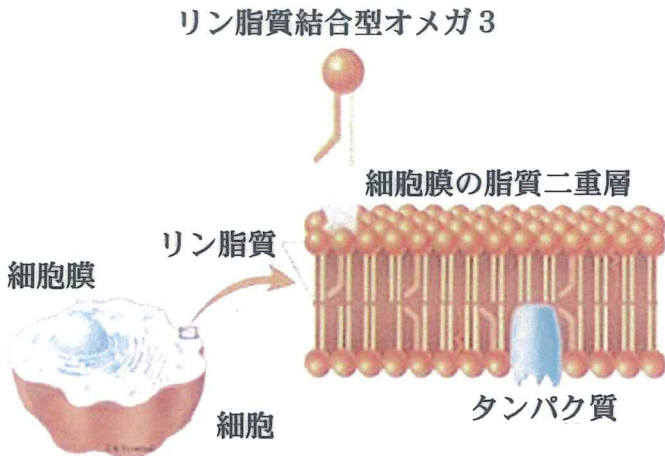


南極クリル



南極クリルの群れ

次世代型オメガ3脂肪酸



オメガ3系の不飽和脂肪酸であるDHA・EPAは食事からの摂取が必要となる必須脂肪酸です。クリルオイルは単にこのDHA・EPAの補給源となるだけではありません。従来補給源である魚油よりも吸収性に優れ、少量で高い健康促進効果が期待できることから「次世代型オメガ3」として注目が集まっています。

クリルオイルの特長

- (1) クリルオイルのリン脂質結合型オメガ3は親水性が高く胃への分散性が優れるため、魚油に含まれるトリグリセリド型オメガ3よりも優れた吸収性を示します
- (2) 吸収効率に優れ、魚油と比較して少量で同等の健康促進効果を発揮することから、サプリメントの少量化が図れます
- (3) 魚油と比較して後味や戻り臭が軽減されます
- (4) トリグリセリド型オメガ3よりもリン脂質結合型オメガ3のほうが酸化されにくく、加えて強力な抗酸化物質であるアスタキサンチンも含まれているので、クリルオイルは酸化安定性が高いです
- (5) クリルオイルの原料となるナンキョクオキアミは、汚染の極めて少ない南極周辺の海洋に生息しており、食物連鎖の底辺に位置していることから生物濃縮の心配もなく、非常にクリーンな素材といえます

クリルオイルの様々な効果

数多くの研究や臨床試験により、クリルオイルは次のような症状に有効であることが明らかにされています。

- ・肥満
- ・高脂血症
- ・心血管疾患
- ・月経前症候群及び月経困難症
- ・変形性関節炎
- ・関節リウマチ
- ・潰瘍性大腸炎